

## 平成 30 年度男女共同参画センターはあもにい

### 第 1 回運営審議会 議事録

1. 平成 30 年 7 月 10 日（火）10:00～12:00
2. 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4F 会議室
3. 出席者
  - ◆ 運営審議会委員（10 名 五十音順）  
石井美代子委員 井手志保委員 伊藤一敏委員 坂口京子委員 中山敏子委員  
那須円委員 伴哲司委員 広渡純子委員 宮村飛伸委員 八幡彩子委員
  - ◆ 熊本市 市民局男女共同参画課参事 玉目友子
  - ◆ 事務局
    - ・代表企業 A 尾池千佳子（九州総合サービス株式会社 代表取締役）  
上村浩二（九州総合サービス株式会社 専務取締役）
    - ・構成企業 B 入杉三久（熊本産業文化振興株式会社 常務取締役）  
河野正治（熊本産業文化振興株式会社 総務部長）
    - ・構成企業 C 吉田稀世（有限会社ミューズプランニング 総務部）  
館長：坂本ミオ 副館長：梅田勝也  
舞台事業課・維持管理課課長：安藤陽介  
企画事業課：伊井純子、内田美香、田中美帆、緒方一茂、村上雅子  
総務管理課：杉卓倫、大久保章
4. 会次第及び議事内容
  - (1) 代表あいさつ（はあもにい管理運営共同企業体代表 尾池千佳子）
  - (2) 館長あいさつ（館長 坂本ミオ）
  - (3) 審議会委員および出席者紹介
  - (4) 審議
    - 議題 1 はあもにい管理運営状況について 会館利用状況報告
    - 議題 2 平成 29 年度実施事業について
    - 議題 3 平成 30 年度事業方針、事業計画について その他
5. 特記事項

平成 30 年度より、伴哲司委員が新たに就任。議事録の署名に関しては、井手委員、宮村委員が新たに推薦され、審議会承認となった。

## 6. 議事録

### ● 議題1 質疑応答・審議

---

(八幡委員)

利用状況資料6番目の利用率と稼働率のデータのとり方はどう違うのか。

(事務局 梅田)

利用率については、月に2回休館日があり、月に28、29日の稼働に対しての利用件数を稼働日数で数値を出している。稼働率は、午前区分・午後区分・夜間区分と3つ区分があり、件数で割って出している。

(八幡委員)

利用率に対して稼働率は必然的に数値が低くなるということですね。理解しました。

(那須委員)

男性の会館の利用、企画への参加促進の取り組みについて先のあいさつでご発言があった。昨年度順調に利用者を延ばす中で、会館利用者全体の女性と男性の内訳は分かっているか。また今年度の目標の中に設定されているか。

(事務局 坂本)

目標を掲げるからには数をカウントしていくのは大変重要。講座では男女比率をとっているが、通常の来館者に対してはとっていない。ホールイベント等は男女共同参画に関わらないものもあるため、男女比同数のものもあると思う。全体での男女比数値は確認できていない。

(那須委員)

全体的につかむことは大変なことだと思う。方向性は数値だけではなかなか判断できにくいとは思いますが、講座などで示していただければ。

(八幡委員)

来館者数の取り方は、講座やイベントの参加の合計値ですか。

(事務局 梅田)

はい、すべて含めたものです。

(八幡委員)

男女比について、事業概要の31ページにも男女比不明の箇所があるが、アンケートを取られているでしょうから、できるだけ把握していただけるようお願いできればと思う。

(広渡委員)

年齢層の把握についてはどうか。若年層の利用率がどういうものなのか。学校に出向いてお話をすることもありますが、若い人がはあもにいの存在を知っているのはどのくらいなのか。ロビー利用、情報資料室の年齢層などもわかれば。

(事務局 坂本)

講座の方は年齢層をお尋ねしているが、どうしても平日の日中の講座であると年齢層が高い。若い方に来館機会を設けることは大きな課題だと思っている。地域との連携の中で、先日黒髪小学3年生33名が社会科見学で来館した。ちょうど4コマ漫画のパネルを作っていたため、それを見せて男女共同参画に関する理解を促したり、会館全体の説明をした。中高校生や大学生に来館してもらえるような企画を考えていきたい。

(八幡委員)

非常に目標値を上回る伸びを続けているということだが、なぜこれだけの方を引き付けてこられたのか、その理由をどう考えているか。館内の混雑状況はどうか。駐車場など窮屈な問題も懸念されるのではないか。目標値をアップする数値で掲げていくことが果たしてどうか。ある程度限られた人数でも、その方に充実した会館利用をしていただけるような方向を目指すというのも考え方としてあるかと思うが、いかがでしょうか。

(事務局 坂本)

非常に重要なテーマで、会館運営面では、多くの方にご利用いただきたいと考えている。順調に数字が上がってきたのは、多目的ホール・メインホールの利用を内部で調整し、お断りせずに済むようにした内部スタッフの努力も大きい。一方で、やはり土日に駐車場が混み合い、駐車場に入れなかったというお声をいただくこともある。その中でベストを尽くそうと思うが、どこが一番いい数字なのか。昨年度の数値が会館の運営としても来館者にとってもよい数値なのかとも思うが、努力を継続していかないと、会館は年々古くなり、新たな会館ができると人が流れることも考えられる。常になるべく来てもらう努力をしている結果、数字が伸びているという状況だと考えている。

(事務局 上村)

参考までに、弊社ではパレア、森都心プラザの運営もしているが、森都心プラザは稼働率70%を超えている。駐車場は常に満車だが、それを承知で使っていただいている。パレアは88%の時もある。はあもにいでは、敷地内の有料駐車場の台数の少なさが課題。無料駐車場もあるがちょっと遠い。また、稼働率を上げていくために大事な部分として、人材の力がある。仕様書の最低限配置より10名近く多く、教育したスタッフを配置している。指定管理料と利用料金によって運営を行っているので、利用増がスタッフの数や質を担保することになる。

(八幡委員)

ということは現状には満足せず、さらに高い目標を目指す。キャパもあるということですね。わかりました。

(宮村委員)

はあもにいのいいところは託児があるところだと思うが、利用率が上がらないのは体制面なのか何なのか。

(事務局 坂本)

これまでは資格取得講座の数が多かったが、昨年から防災出前講座を増やし、出向く講座を増やしたため、会館内での託児利用が減り、この数字になった。

(宮村委員)

託児があるということは強みなので、ぜひそれを生かしてもらいたい。

## ● 議題 2、3 質疑応答・審議

---

(八幡委員)

編成方針について、資料 A-② 講座数の変更が生じているのは、熊本地震の影響によるということでしょうか。

(事務局 伊井)

はい。

(八幡委員)

承知しました。

(伊藤委員)

地域に広報いただきたいということで、広報紙（はあもに通信）を回覧した。それに対する反応や要望などはあったか。

(事務局 田中)

募集対象が黒髪校区だけではないため把握しきれないが、防災講座にお申し込みをいただいたり、部数を増やしてほしいなどのご連絡をいただいた。

(伊藤委員)

今月はまだ通信が来ないとか、そういう話が集まりで出ている。地域に根をはった会館の活動ができるように頑張ってもらいたい。

(那須委員)

昨年度の取り組みの中で、ウイメンズカレッジの受講生が修了時に人数が減っているのはなぜか。継続できなかった理由、サポートがあれば継続できたなど課題があったか。

女性に対するDV防止について、東京都目黒で5歳児の虐待事件があった。その過程の中に例えば女性が暴力があったりして言えなかった事情がなかったかと思いを巡らせる。DV防止の取り組みなどについて教えていただきたい。

(事務局 伊井)

ウイメンズカレッジについては、ご家族がご病気、仕事の関係などで来られなくなっ

たなど個人の家庭や仕事の理由があった。以前は最後に発表の場を設けてハードな課題を出したこともあり、その際には仕事との両立が難しいなどの声があった。レポート提出を含めて8割出席を修了としているが、今回は欠席者に対して、最近の男女共同参画に関するニュースなどをテーマに意見をまとめたレポート提出を課題にしている。アンケートや交流会などで受講生に話を聞き、生の声を反映させながら行っている。

DV防止について、今年度開催している「女性の生きづらさを考える講座」では、チラシにもDVという言葉は入れていない。それは自分がDVを受けているという意識がないままに「生きづらい」と思っている方がいるので、それがDVの結果だということに気づいてもらいたい、という主旨があった。アンケート結果では「DVと明記してほしかった」「DVだと気づいた」という両方のご意見があった。ひとつの切り口ではなく、さまざまな切り口での対応が求められているという理解でいる。面前DV等の子どもに対する影響については、2回目の講座で取り上げた。

(八幡委員)

市の方でも相談窓口を設けているし、市の計画にあがっている。関係機関との連携をご検討ください。

(坂口委員)

DV予防という観点では、託児利用が少ないのは育休復帰が早くなっているというところで、ウイメンズカレッジの応用で、育休・産休の方向けのカレッジ、親子関係、DV予防、職場復帰を含めて連続講座としてあるとよいのでは。ウイメンズカレッジの男性版、男性が参加しやすいもの、子ども大学、それぞれのカレッジを構築し、最終的に席を合わせて交流ができると、多様性という面ではよいのでは。

2020年18歳成人について、もう少し大人は子どもたちに教えていくものがあるのではと思います、大きな社会の動きに対応する子どもと大人が勉強できるものがあるといいなと思う。世界子どもサミットが行われているし、「子どもサミット熊本はあもにい」のようなものがあるとよいのでは。

ホワイトリボン・パラレルキャリア・国際女性デーなど、社会的キーワードが出てくるので、言葉の説明がわかりやすい冊子かホームページに載っていると波及効果になるのでは。

インターンシップは業務の中で大変だと思うので、講座化しては。事前課題があつてのインターンシップになると効果的。

はあもにいとパレアと森都心の特色の違いを教えてほしい。

(事務局 坂本)

たくさんのアドバイスをありがとうございます。男性向けのカレッジは、どう集客・連携するかが課題。届けたい相手にどう届けるかを考慮したうえで、ぜひチャレンジし

ていきたい。育休復帰を対象にした取り組みは、時間がかかるがぜひ取り組みたい。

パレアは県の交流会館、県の男女共同参画のセンター、生涯学習、NPO 支援の拠点となる。はあもには市の男女共同参画推進の活動拠点で、行政区分が違う。内容はパレアは市町村の男女共同参画推進への指導啓発がメイン。熊本市は市民と直接のやりとりとなる。

(事務局 上村)

森都心は総合プラザで、部屋を無料で1年間貸してビジネスセンターが支援する。2階が観光情報発信、3階が子ども図書館、4階がビジネス図書館、有料の託児室もある。5階がホール、6Fが会議室。会議室だけで9つ。音楽室、和室もある。パレアは貸館を重点的にやっており、新たに藤井さんを館長として県の事業を民間が行うという初めてのチャレンジ。男女共同参画の方はある程度実績があるため信頼を得ている。違うのは、事業の企画、講師の選定は県が行う。県の企画に対して現場で運営していくのが役割。

(八幡委員)

県の事業を藤井前館長がどう変えていくのか、市と県のすみわけ、連携がとれればと思います。

(井手委員)

7ページの資格取得講座は、対象はどなたでもいいのでしょうか。チラシを見たときに、就職支援となっていた。

(事務局 伊井)

現在お仕事をされていない方が再就職のために資格取得をする講座。平日午前が開講している。

(井手委員)

資格取得講座について今後の予定は。

(事務局 伊井)

今年度は出前防災講座を行っているため、指定の事業数を減らして行っている。今年度は1月からエクセル講座を実施する。以前は資格取得講座を7講座実施していたが、社会情勢が変わり、その資格を持っていることが再就職に有効なのかどうか、短時間で取得できる資格などもリサーチしながら導入を検討したい。

(井手委員)

ウイメンズカレッジの受講者が増えたということで、スキルアップを目指している方が多いと感じる。資格取得講座につなげていただければと思う。

(宮村委員)

昨年男子ごはん講座があったが、今年は予定がないのか。私は車の営業をしていて、

平日が休み。子どももいないし、休みの日が退屈。土日の男子向けの料理教室は、子どもがいるので子どもを置いて参加はしない。平日休みの男性は娯楽施設に行っているということも聞くので、自動車協会との連携ができないか。

子ども、若年層への絶好の機会。夏休みの企画があれば。

(事務局 田中)

そういったアプローチがあるのだと知りました。貴重なご意見をありがとうございます。男子ごはんは、昨年度は連携事業で行ったが、今年度の連携事業は未定。料理教室は、料理を作るだけとはあもにいが開催する意味合いが薄くなるので、男女共同参画が推進できるような講座として検討していきたい。

夏休みのイベントは、市民グループくまてん企画の「子どもが一人で作る簡単ごはん」を実施予定だが、あつという間に埋まってしまった。以前は、「はあもにい探検隊」などを行っていたが、今年度は人事異動があったことと、視察が多く忙殺されていることもあり実施できていないが、今後考えていきたい。

(石井委員)

これだけの講座を行うのは大変なことと思うが、ウイメンズカレッジはラジオでも広報されており、対象年齢までしっかり広報されていたのですごいと思った。修了生が活躍されていると聞いているが、卒業生の会があるのか。私どもも起業をしているが、ぜひ連携していきたいのでご紹介いただきたい。

DVについて、弱者に対する圧力だと思う。やはり衝動や病気なので治療もしていかなければと思う。

男女共同参画からみた防災について、女性の会には男性の力は必要だが、連携すればと思っている。

国際女性デーについて、ミモザフェスティバルは国際女性デーにちなんだイベントということだが、知らなかったというのが残念。発信の仕方に工夫を。

(事務局 坂本)

ウイメンズカレッジ修了生のネットワークについては、課題としている。こちらからは定期的にやりとりをしているし、同期生たちのつながりは一部で継続しているが、修了生の会までに至っていない。今後検討し、重層的な団体にしていきたい。

DVに関しては、今年行った講座でも学びがあったが、来てほしい方に来てもらうというのが非常に難しいテーマであり、研究が必要だと思っている。

国際女性デーの発信の仕方については、不十分。弊社のスタッフでフランスに旅行した者がパリの旧市庁舎に国際女性デーを知らせる懸垂幕が下りていて、とてもおしゃれだったと報告があった。はあもにいでは安全管理上できないが、何か考えていきたい。

(伴委員)

お願いを2点。方向性の中に一番に男女共同参画の視点からの防災を掲げているが、私自身も今後の防災を考えるうえで女性の視点は欠かせないと思う。先月、東京の国際防災展で「東京くらし防災」というパンフレットを手に入れた。女性の視点で自身の備えから地震後の生活復旧までを網羅している。こういうパンフレットもある中で、報告書を作成されているが、こちらにある被災者の声というものが非常に貴重。この知見をぜひ生かしていただき、防災パンフレットについては、災害の備えから災害が起きた後どう立て直していくかを網羅して全国に発信していただければと思う。ぜひ取り組みいただきたい。

息子が高校1年で大学入試改革にかかる年代。高校生のさまざまな学習以外の活動を評価するとある。学校外の活動をどう高校生にさせるか、高校生のボランティア活動を取り入れると、若年層への活動になるのでは。

(八幡委員)

貴重なご意見をありがとうございました。

(中山委員)

先ほど5歳の女の子の話が出たが、女性は昔から耐えることの教育を受けてきたため、耐えるということがどうなのかと考える。ある会合では、今は女性が暴力をふるっている家庭も多いと聞く。親から暴力を受けて育ったから、わが子には暴力をふるうまいと思ってもついつい手が出てしまうと、涙ながらに訴える方もいた。暴力というものがこの世の中から去ったら、本当に生きやすい世の中になるのではと感じる。若年層対象の講座を実施したが、学生の反応はどうでしたか。

(事務局 田中)

以前、女性リーダー協議会と共催で行った「高校生のための人権ワークショップ」の時は、高校生は男女共同参画の問題に違和感を感じており、「男でも泣いてもいいじゃない」「女の子でも勉強を頑張っているのでは」という意見を持っていた。先日の黒髪小学校の子どもたちは、自分らしく生きる未来を選択してほしいという話をしたら、笑顔でうなづいていた。高校生のデートDV講座等も含め、さまざまなきっかけではあもに利用していただければと考えている。

(広渡委員)

男女共同参画の視点をもった防災出前講座は、少人数でも来てもらえるメリットがあり、求めているところはたくさんあると思う。大変だが独自の講座として続けていただきたい。防災ハンドブックには、ぜひ報告書を生かしていただきたい。刊行スケジュールはどうなっているか。というのは、豪雨の被災地にも生かせると思うので、できるだけ早くという希望をお伝えしたい。

(八幡委員)

早く刊行されるのをお待ちしております。

資料 3・4 ページの編成方針を実現できる各種の講座が行われることを期待申し上げて、最後の要望といたします。